

巻 頭 言

Preface

2123 年へツナグ

代表取締役社長

小島 和人



2023 年 11 月 16 日に当社は 100 周年を迎える事が出来ました。

先輩たちが創始した『空気調和』という事業を今日まで繋ぎ続けられたのは、『技術の高砂』として、事業を通じて社会奉仕を追及し続けてきたことに尽きます。

そして、2020 年に高砂熱学イノベーションセンターを開設して早くも 4 年が経過しました。この間、新型コロナウイルスの世界的な蔓延、ロシアによるウクライナ侵攻、これに端を発したエネルギー価格の高騰など、様々な問題が私たちに直面しました。このように予測が非常に困難な時代ではありますが、そういった時においても、高砂熱学の存在意義を失うことなく、未来永劫に亘って繋ぎ続けていくため、全社員と共に、高砂熱学グループのパーパスを策定しました。

『環境革新で、地球の未来をきりひらく。』

このパーパスのもと、高砂熱学イノベーションセンターでは、「建物の環境を創る」「地球の環境を守る」「新たな環境に挑む」の 3 つの柱で、日々技術開発・事業開発に取り組み、社会・環境への貢献を目指しています。また、立地するつくばみらい市を中心に、「地域社会に貢献する」目的で施設の提供や未来を担うこどもたちの夢を育むしごとをしています。

本報は 2023 年の 1 年間のイノベーションセンターの活動を皆様に詳しく知っていただくための報告集です。さらに今回は、これまで当社の研究開発・事業開発の 3 つの柱と地域貢献の活動で、長きにわたりご指導、ご支援を賜りました先生方に、高砂熱学の次の 100 年に向けたメッセージも頂戴しています。

当社は創立以来『技術の高砂』を標榜し、独自の技術を開発できたのは、「創造的性格」を時代のニーズにあわせて追及してきたからにほかなりません。では 100 年後はどんな技術を創造しているでしょうか。

建物内にて温湿度だけでなく、CO2 や光、水分までをコントロールし、植物より出される信号とマッチングさせて、植物が欲しい時に効率的な栄養を与えるネットゼロに資するシステムを開発し、温暖化の解決だけでなく、この影響による生物存続の危機や食糧問題もクリアしている

かも知れません。一方で、現在は空調システムに不可欠でありつつも、オゾン層破壊などの影響を与えてきたフロンガスを全く使わない高効率の冷却・加熱技術が、エネルギー問題に貢献するとともに、人体を取り巻く環境の温湿度制御や、様々なモノづくりの場における環境構築の主流になっているでしょう。さらに、月や火星などの宇宙に目を向けると、その存在が有力視されている氷の層から、当社の得意とする熱・流体を活用したサーマルマイニングによって水を取り出し、太陽光発電により水を電気分解して作り出された水素と酸素を利用して、多くの人類が宇宙で快適に暮らしていることと思います。想像するだけでもワクワクしてきませんか。

このような未来は、『技術の高砂』といえども、決して当社グループだけでは創り得ません。目的と志を共有する、様々なパートナーの皆さまと共に進む『共創』でこそ、実現すると信じています。

終わりに、パーパスの実現のために、高砂熱学の原点である『人の和と創意で社会に貢献』を胸に、TakasagoWay の価値観を持って行動し、環境クリエイターとして邁進していくことを祈念して、締めくくりといたします。